

第三者評価結果 公表シート

(このシートに書かれている内容は、そのまま富山県福祉情報システムにおいて公表されます。)

保育所(園)名 : 富山市立上条保育所

第三者評価機関名 : 社会福祉法人富山県社会福祉協議会

評価確定年月日 : 平成 30 年 2 月 5 日

1. 概評

◇ 特に評価の高い点

【環境を生かした保育】

- ・ 小規模保育所ならではの地域との交流・縦割り保育の良さ・保護者とのコミュニケーションがうまく機能して家庭的な保育所作りがされている。地域の方たちは、サツマイモや夏野菜の苗植え、収穫、花壇作りなどを精力的に行い、大変協力的である。子育てシニアサポーターのボランティアもあり、地域に育まれた保育所である。
- ・ 園庭に木苺が実り、ジャム作りをしている。棘のない木苺(カジイチゴ)で子どもたちも危険なく収穫でき、当保育所ならではの恵まれた経験である。また、キンモクセイの花でポップリ作りを楽しむなど、園庭にある恵まれた自然をふんだんに保育に取り入れている。
- ・ 3.4.5歳児が15名、0.1.2歳児が22名という入所内容である。縦割り保育では、小さい子の世話や遊びなど自然な形で行われている。保護者・子ども・保育士・ボランティア皆が、お互いなじみの関係であり、家庭的な日々の生活が繰り返されている。

【子どもたちの声が聞こえてくる基本方針】

- ・ 5つの基本方針「まいにちげんきに、きたい。」「いっぱい、あそびたい。」「たのしいほいくしょにしたい。」「おはなを、うえたい。」「つくったものをいっぱいかざって、かわいいほいくしょにしたい。」は、春に子供たちの「こんな保育所になるといいな～」の声を、先生方が集めた。子ども目線、わかりやすい具体的な言葉で、子どもたち主体の方針が玄関ホールに掲げられ、実践されている。

【大勢の関係者で楽しんだ運動会】

- ・ 子どもが少ないため運動会には、保護者や地域の方々、ボランティアに広く参加を呼びかけ開催している。子育てシニアサポーター会員より、「励ましのあいさつ」をいただいたり、職員自らの企画で盛り上げるなど、保育所を支援するたくさんの方々子どもたちが活躍する場面も設け、ふれ合いながら楽しい時間を過ごした様子や満足度が利用者アンケートから伺える。

◇ 改善を求められる点

【管理者の更なる指導力の発揮】

・所長は、保育所における保育の質に関する課題など自己評価などを活用し、お互いが保育内容を振り返りながら、その課題を組織全体で明らかにしていくことが求められる。それらを、P(計画策定)→D(実行)→C(評価)→A(見直し)のサイクルにもとづいて、実践・指導していくことで恒常的な取り組みが図られる。また、様々な事案の検討プロセス内容を記録し保管、閲覧できる環境を整えることで、職員間の情報共有や周知、人事異動などで所長が変わった場合においても有効な情報となるため、それらの議事録などの作成についても更なる取り組みに期待したい。

【プロセスに基づいた事業計画の作成】

・経営主体である富山市と協同して、中・長期計画作成に取り組む姿勢が計画書からもうかがえる。しかし、作成にあたっては所長をはじめとする、ごく限られた職員の参画にとどまっている。地域の様々な立場からのニーズも汲み取りながら、ビジョンを明確にし、実現に向けた組織体制・設備整備・職員体制・人材育成などに関する具体的な計画を立案、その検討プロセスの記録・保存に取り組まれることに期待したい。

【危険箇所の再認識】

・園庭にコンクリート、タイル製のプールが設置されている。子どもたちには、遊んではいけないとの約束がされているようだが、行事など他の人が入る運動会や親子サークルなど、それらの箇所で事故などが発生する危険性が高い。想定外の事故が起こりうることも考慮し簡単な柵の設置や、遊ばないように促す表示などを工夫して、安全な保育所環境を目指してもらいたい。

【楽しい食事時間について】

・食事時間について、子どもたちが自分でできること、当番がすること、保育士の援助が有効なことなどを再検討し、効率的な食事の準備と楽しい食事時間の工夫をしていただき、さらに安全で楽しい食事時間になるように期待したい。2.3.4.5 歳児で昼食をとっているが、2歳児からお盆におかずやご飯を順に運び、3歳以上児は、各自で盛り付けし席まで運ぶ、その間お茶だけをお盆に載せ自分の席まで運ぶ子どももおり、こぼさないかとハラハラする。準備に時間がかかり、待ち時間も長く、時間がかかりすぎる場合は食中毒の懸念もでてくる。人数的にも隣のクラス(オープン)を利用し、伸び伸びと食事をできるような環境整備や、安全に効率よく準備をするため、保育士がテーブルでお茶を入れるなどの手順の工夫など検討されたい。

2. 大項目毎の特徴

1 運営管理

- ・日々の保育の場面(特にボランティアとの活動や行事)を、写真やエピソードをつけてタイムリーに見てもらえるよう送迎時まで用意し、玄関ホールに掲示している。その後しばらく活動の様子を親子で振り返られるようファイリングして閲覧可能になっている。
- ・近年増加傾向にある、アレルギー制限食を希望する子どもには、富山市こども支援課で作成された献立表とは別に、毎月、代替対応・除去対応の食品が記載された献立表を個別に配布し対応している。
- ・剣道指導(地域ボランティア)の活動については、保護者へアンケートを行い意向に基づいて継続導入している。
- ・小規模な保育所のため、正規職員が少なく嘱託及び臨時職員が多く配置されている。保育所運営を円滑にすすめるため、所長は嘱託及び臨時職員の就労環境の相談・調整、配慮に心掛けている。

2 地域の住民や関係機関との連携

- ・保育所、小学校、中学校まで近隣に位置し、公開授業をはじめとして相互間の交流活動も盛んに行われており、地域からの様々な支援も多く、地域密着型の保育所である。
- ・不審者対応訓練を行う際は、前日に関連するお話を子どもたちに聞かせ意識づけを行い、訓練当日には、上条駐在所の警察官(社会資源)にも参加していただき具体的な指導を受けている。

3 子どもの発達援助

- ・縦割りの良さを保育にふんだんに取り入れ、家庭的な雰囲気である。遊びや世話など進んでいる。
- ・地域の方が持って来てくださったザリガニ、アブラハヤ、草亀など、子どもたちは観察をしながら飼育している。特にアブラハヤは、昨年捕獲したものと、今年のアブラハヤの成長の違いが分かるよう水槽が並べてあり、比較して観察しやすい。
- ・野菜作り、木苺ジャム作りなどを通し地域性を生かした保育をしている。
- ・運動会は、家族・地域の方の参加に加え、保育士の演出も好評で楽しくアットホームな行事になっており、喜ばれている。
- ・毎月の食育の日は、栄養士が子どもたちに分かりやすいように写真や絵図を用意し、食べ物の話しをしている。資料は、玄関に掲示し保護者と子どもたちとの会話も増えている。
- ・個別に配慮が必要な子どものケース会議を行った際の記録について、職員会議録とは別に、個別のケース記録として整理されることが、職員や関係機関との共通理解を図るためにも望ましい。

4 子育て支援

- ・年間7回の親子サークルを開催している。その際、相談も受け安心して子育てができるように配慮している。
- ・地域ボランティアが保育に参加し、地域から愛されている保育所であると同時に子育て支援に協力的であり安心して子育てができる。

3. 各小項目にかかる第三者評価結果(ABCD評価結果) (別紙)

4. 第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価を受けるにあたり、職員一人一人が自己評価をしたことで、自分の保育や当保育所のあり方について考える良い機会となりました。また、保育はチーム力が大事だということも職員間で再確認することができ感謝しております。

高く評価していただいた点については、さらなる向上を目指し今後も継続していきたいと思えます。改善を求められる点については、公立の保育所として地域のニーズに応えていけるよう努めていきたいと思えます。

今回の評価結果を真摯に受け止め、職員間で検討し今後の保育に活かして保育の質を高めていきたいと思えます。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、利用者アンケートにご協力していただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

別紙 各小項目にかかる第三者評価結果（A B C D評価結果）

大項目		
中項目	小項目	評価

1 運営管理		
(1)基本方針	①理念及び基本方針が明文化され、職員、保護者、関係者に周知するための取り組みが行われている。	A
(2)中・長期計画	①中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	B
	②中・長期計画が適切に策定されている。	B
(3)組織運営	①保育の質の向上や改善のための取り組みを、定期的な自己評価など、職員参加により行っている。	B
	②職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	A
(4)守秘義務の遵守	①守秘義務の遵守を周知している。	A
(5)情報提供・保護者の意見の反映	①情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	A
	②保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	B
	③保育サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	A
(6)安全・衛生管理	①事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されているとともに、事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	B
	②調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	A
(7)人事管理	①人事管理の体制が整備されている。	A
(8)経営管理	①予算管理の体制が整備されている。	A
(9)管理者の責任とリーダーシップ	①管理者の責任が明確にされているとともに、リーダーシップが発揮されている。	B

2 地域の住民や関係機関との連携		
(1)地域の住民や関係機関・団体との連携	①医療機関・児童相談所などとの相談・連携体制を整えるとともに、その他地域の関係機関に関する情報を収集している。	A
	②小学校、地域団体、地域住民などとの連携、交流が図られている。	A
(2)実習・ボランティア・保育体験	①実習生、ボランティア、保育体験などの受け入れ体制が整っている。	A

3 子どもの発達援助		
(1) 発達援助の基本	①保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	B
	②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	B
	③一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	④一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	A
	⑤一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	B
(2) 健康管理・食事	①登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	A
	②健康診断(歯科健診含む)の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	A
	③感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。	B
	④専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A
	⑤日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	A
	⑥食事を楽しむことができる工夫を保育士がしている。	B
	⑦食事を楽しむことができる工夫を栄養士、調理員などがしている。	A
(3) 保育環境	①子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A
	②生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	A
(4) 保育内容	①子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	A
	②基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。	A
	③子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	A
	④身近な自然や社会と関われるような取り組みがされている。	A
	⑤さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	A
	⑥遊びや生活を通じて、人間関係が育つよう配慮している。	A
	⑦子どもの人権に十分配慮するとともに、互いに尊重する心を育てよう配慮している。	B
	⑧性差への先入観による固定的な観念や役割分担意識を植え付けないよう配慮している。	A
	⑨乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑩長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A
	⑪障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	B

4 子育て支援		
(1)入所児童の保護者の育児支援	①子どもの発達や育児などについて、懇談会や保育参加など保護者と共通理解を得るための機会を設けるとともに、一人一人の保護者と日常的な情報交換や個別面談などを行っている。	A
	②虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、児童相談所などの関係機関に照会・通告を行う体制が整っている。	A
(2)多様な子育てニーズへの対応	①多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを活動や事業に反映している。	C
(3)地域の子育て支援	①育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	B
	②一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	-